

特別投句

兵庫県知事

井戸敏三



淡路島百景……

79

慶野松原

冬涛の寄せる松帆に海人の声

あま

淡路島百景……

96

若人の広場

秋天に紺碧の海を祈る人



若人の広場は、先の大戦で学徒出陣、学徒勤労のため戦死した二十万人余の若者を慰霊するため、昭和四十二年に建設された。この秋(平成 29 年)、終戦七十周年を機に、その御霊を追憶し、あらためて世界の恒久平和を願う式典が、美しい瀬戸内の景観と融和したこの広場で開催された。

国生みの島、淡路を象徴する銅鐸が出土しました。これらのはあまの海人の活躍です。これを偲び、未来を思いました。

ホトトギス名誉主宰
稲畑汀子



淡路島百景……………54

高田屋嘉兵衛公園

流星に明かせし夜空島のもの

淡路島百景……………84

淳仁天皇陵

朧夜や悲劇の帝偲ぶ森



中島輝子撮影写真使用(神戸市)

今から19年前の11月17日の夜俳句の仲間16名は期待と夢に胸を膨らませ、淡路島の五色町の山上のホテルに一泊の予定を入れた。

ディナーの後、ホテルの広い庭の安楽椅子に座り、午前4時頃、東南東の空に獅子座流星群に歓声を上げながら夜を明かした。予約したホテルのベッドに休む者は一人もなく夜を明かした。淡路島の夜空は澄み渡って流星の舞台を繰り広げていた。

淳仁天皇は第47代天皇に即位後6年で、皇位をめぐる争いに巻き込まれたため、淡路島に流され、33歳の若さで亡くなったとされている。平坦な三原平野のなかに浮かび上がる天皇陵の森は、「淡路廢帝」と称される悲劇の帝を偲ぶ景観となっている。

ホトトギス同人

大久保白村



淡路島百景……………43

メガワットソーラー発電施設

天高し神話の国のメガソーラー



豊かな自然を持ち島として豊富な海産物に恵まれ、島でありながら海の見えない緑豊かな山国の景色も持つ淡路島、くにうみの神話に始まる歴史を持ち、その歴史豊かな風土に育まれた文化や伝統行事を持つ淡路島、更に未来に向け新しい景観を生み出して下さい。

淡路島百景……………01

明石海峡と明石海峡大橋

冬風や橋の引つ張る淡路島

パールブリッジの愛称で親しまれる明石海峡大橋は、主塔間の長さが世界最長の吊り橋である。神戸市側の主塔から淡路島を望む景観は、あたかも明石海峡大橋が淡路島を引張っているように感じられる。



身にしみぬ木偶に涙はあらねども

淡路人形浄瑠璃館

淡路島百景……………91

500年の歴史を誇る淡路人形芝居は、国指定重要無形民俗文化財に指定されている。

その始まりは漁の安全と恵み等を祈る神事を人形操りで行ったことにある。現在、淡路人形浄瑠璃館においては、人形芝居が上演され、淡路島の伝統芸能を伝える拠点となっている。



若葉主宰
鈴木貞雄

天へ積む神話の島の青棚田

淡路島百景……………21

生田地区の棚田



淡路島は、イザナギ・イザナミ二柱の神が大八島の最初にお創りになった島であり、御食つ国として海山の幸に恵まれた島である。淡路島がこれからも、長い歴史と文化、豊かな自然を大切にしていって頂きたいと願い、この一句を詠みました。

岬主宰
成川雅夫



淡路島百景……………99

沼島地区の自然と一体となった町並み

手毬つく神話の島の子に生れ

淡路島百景……………94

大鳴門橋と鳴門海峡の展望

渦潮を掠めて鷗風を切り



紀淡海峡に浮かぶ沼島は、漁業を主な産業とする人口約600人の島。国生み神話の中で、イザナギノミコトとイザナミノミコトが最初につくったオノコロ島であるとの伝承地は、淡路島内に七箇所あり、沼島もそのひとつである。

エンジンを止めた観潮船から直径10メートルに達するという渦潮は壮観で感動させられた。中心の渦を巻きながら底知れず沈んでいくのには恐怖すら覚える。やがて、この渦潮を掠めるように颯爽と飛ぶ鷗に気付いた。実は、海面に浮く死魚を探す絶好の場所なのだ。



ホトトギス同人会長
安原 葉

淡路島百景……………64

大浜海岸

白波や春一番の海ほとり

淡路島百景……………10

淡路夢舞台と国営明石海峡公園

われ一人では勿体なき星月夜



淡路夢舞台は百段苑、奇跡の星の植物園、国際会議場等を有する複合的施設である。また、国営明石海峡公園は公園のいたるところから瀬戸内海と四季折々の花を楽しむことができる。花みどりフェアの淡路会場として、両施設には多くの人が訪れ、美しい花々や自然にふれあうことになる。

永田青嵐生家を訪ねたのは春風の吹く頃であった。その地に立って、激動期の首都東京と日本のために身命をなげうって尽くされた功績を偲んだ。さらに生家を望む高みにある墓所を訪ね、謹んで拝礼したのであった。



田鶴主宰・ホトトギス同人
水田むつみ

淡路島百景

65

洲本城址

波音や月光限りなく句碑に

海見えて
風花
光る
ものとなす

大浜海岸に永田青嵐の「傀儡師波の淡路の詠かな」の句碑があり、島挙げて氏を顕彰する全国俳句大会が続いている。その主選者・稲畑汀子ホトトギス名誉主宰の「海見えて風花光るものとなる」の句碑が並び建立された。堂々とした自然石の二基からは崇高な精神が満ち溢れている。

兵庫県議会議員

浜田知昭



淡路島百景……………57

淡路富士・先山

故郷の山陰照らす曼珠沙華

淡路島百景……………57

淡路富士・先山

菜の花の迷路の子らに淡路富士

地域の人たちが大切に育てた菜の花で作った迷路。楽しそうに遊ぶ子供らと、やさしく見守っている淡路富士は郷土の宝。

別名「淡路富士」と呼ばれる先山は、国生み神話の二神が最初につくった山(先山)であるといえられている。

山頂には淡路島の名刹である先山千光寺があり、信仰の山の静かな雰囲気醸し出している。

淡路島百景……………08

兵庫県立淡路島公園と淡路ハイウェイオアシス

わだつみの風の放ちし落花かな

かつらぎ特別同人 大星たかし

淡路島百景……………56

サンセットラインから望む夕日

七浦の沖を一つに大夕焼

ホトトギス同人 高田菲路

淡路島百景……………57

淡路富士・先山

雲の峰はるか靈山より迫る

郭公同人 中谷のぶ



淡路島百景……………99

沼島地区の自然と一体となった町並み

神の島埋みつくして若葉かな

淡路風土俳句会代表 正井良徳

淡路島百景……………01

明石海峡と明石海峡大橋

島結ぶ架橋に太る雲の峰

若葉、岬同人 三根香南

淡路島百景……………94

大鳴門橋と鳴門海峡の展望

大渦潮天日を呑みつつけたる

南淡七曜俳句会代表 稲山忠利



蛸壺を住み家としたり寒雀 川西市 瀬野昌枝

海峡の行き交ふ船の灯の涼し 淡路市 出雲容子

万葉の島夕焼けて歌碑を染む 淡路市 川村ひろみ

いかなごの網を食み出す光りかな 飯能市 浅見秀溪

どの径も海を臨める花野かな 洲本市 久保英美

露けしや断層跡を見ればなほ 神戸市 田附光映

田を植ゑて門浪の夕日沈めけり 南あわじ市 田村偉彦

棚田越ゆ風をも染めしそばの花 淡路市 田村伊久男

棚田守る父祖の山墓曼珠沙華 墨田区 彦坂和泉

秋例祭宮田西里揃ひ練り 明石市 藤森泰宏

山桜古木は白し村境 淡路市 長尾千鶴子

太古より命つなぎし清水かな 洲本市 濱田輝子

白子干す潮目定かに播磨灘 南あわじ市 牛田清香

この町に嘉兵衛翁あり秋高し 府中市 小長谷敦子

踊らむか人と渦とをごちや混ぜて 神戸市 木村常二

鷹一羽天守の風を捉へたる 東村山市 岩崎清子

水軍の城址の古井竹の秋 洲本市 増田直美

城の花紺屋町まで吹雪きけり 洲本市 高田菲路

桜貝拾へず五色石拾ふ 宝塚市 広田祝世

産卵の亀待つ浜や夏の月 神戸市 小柴智子

要塞はおのが世界と赤蜻蛉 豊島区 遠藤風琴

鹿の角拾ひもぞする滝見かな 淡路市 浜野美代子

淡路島万の玉葱畑かな 高槻市 林 曜子

玉葱の真中に坐して商へる 神戸市 千原叡子

暫くを島の子となり夏休 姫路市 小泉志げ子

国生みの聖地はここぞ天高し 箕面市 須知香代子

陵の幾とせ経たる露けしや 南あわじ市 今井文代

黒潮へなだれて白し野水仙 洲本市 高田迪子

水仙を吹く朝風をふところに 富士吉田市 宮下栄江

観潮船待つ間にのぞく木偶芝居 神戸市 内田あさ子

競りの声 淡路訛や桜鯛 南あわじ市 藤堂惇子

大鳴門寒満月を渦に巻く 淡路市 奥野登代子

鳴門鯛ささげて祝ふ島祭 明石市 奥野 了

渦の底より湧き上がる秋の声 箕面市 須知香代子

鷹渡る渦潮さだかなる日なり
南あわじ市 山口加津子

秋風や鳴門に残る平家悲話
淡路市 西殿慶子

蛸壺に冬薔薇育て島に老ゆ
岡山市 山上隆恵

国生みの島の明けゆく初渡舟
町田市 有馬澄廣

鱧のころ浜賑やかに船の着く
姫路市 小泉志げ子

国生みの島に潮満つ盆の月
平塚市 藤岡孝子

国生みの神の岩立つ淑気かな
南あわじ市 中谷のお

東山寺どの道行くも紅葉燃ゆ
南あわじ市 児玉百合子

紺碧の海を見下ろす水仙花
神戸市 岸下庄二

ひまわりの波に浮かべり淡路富士
南あわじ市 山田恵子

野辺緑だんじりの赤燃える朝
南あわじ市 森岡 満

潮の香の迫る蟹^{あま}ヶ家門涼み
洲本市 高野さち

御神体背負ひ街練る秋祭
洲本市 谷 勝美

いかなご漁吃水線を深々と
神戸市 寅屋照夫

だんじりを神話の島に曳きゆけり
奈良市 和田 康

秋天へカリヨン響く丘の校
淡路市 山田かずみ

紫陽花の丘に登れば夢舞台
神戸市 太田節男

白子干す島の日和を信じたり 宝塚市 田口晶子

名号石大師も愛でし紅葉燃ゆ 洲本市 濱田英子

秋立つや古式ゆかしき東山寺 洲本市 濱田俊彦

淡路富士うしろ明るき良夜かな 洲本市 齋藤節子

うみほたる昼の熱砂の残る浜 洲本市 細田三代子

十万のラツパ水仙大合唱 淡路市 久住泰子

やわらかな陽射し水仙香る丘 淡路市 神池美智子

緋の帯を浮かべて冬の夕日かな 南あわじ市 初汐惣市

国生みの花のまほろば円城寺 淡路市 矢田勝子

伝統を担ぐ神輿みこしの春まつり 洲本市 生田静子

燕飛び大名行列毛槍立て 淡路市 米田静子

月天心宝塔高く影持たず 淡路市 音田滋美

干菜吊り路地に音なき漁師町 葉山町 可知久子

炎天下ソーラー発電フル稼動 大田区 右田俊郎

観覧車大秋晴を回しけり 神戸市 涌羅由美

渦潮を巧みによけて若布刈舟 豊中市 金岡道子

夜桜やあかり灯して曲田山 洲本市 久保旭弘

タマネギがおしくらまんじゅう小屋の下

広田小学校

的崎聖也

ウミホタル燃える命に映える月

榎列小学校

杉本 豊

玉ネギ小屋祖父の作業を手伝いに

三原中学校

三宅奏一郎

勇ましくゆれるだんじりたいこの音

三原中学校

菱池 愛

ゆずるはを越えて見下ろす夏の雲

三原中学校

中俣葉月

吊り橋の上で感じる秋の風

所沢高等学校

永田 葵

夏おわり夕日に染まる多賀の浜

淡路高等学校

正司敬士

真夏の日ホールに響け楽器の音

三原中学校

川原有捺

春風と共に旅立つ愛しき友

三原中学校

森川晴菜

寝そべれば辺り一面桜色

三原中学校

砂川優斗

砂浜で浴衣姿の君探す

三原中学校

沼田優太

夏の日のまぶしい笑顔焼きつける

三原中学校

山口陽彩

人生を切り開く瞬間桜咲く

三原中学校

片山茉歩

満開の桜の木を見て出発だ

三原中学校

石川理加

ちりめんが春光を浴びいい香り
三原中学校 久田健太

秋風とともにあなたのバスを待つ
三原中学校 池澤寛太

桜咲く希望と未来があふれてる
三原中学校 沼田美咲

夏休み県立公園盛り上がる
三原中学校 豊原正己

波ゆられ桜舞い散る福の神
三原中学校 木田向陽

波際に青い星空海ほたる
三原中学校 山口泰知

楽器の音蟬の音響くホールかな
三原中学校 豊田彩葉音

ゴーカートとんぼもいっしょによういどん
城星学園小学校 三根乗頼

夏の夜の海の宝石ウミホタル
倭文小学校 霊元藍登

ウミホタル光り輝くLED
倭文小学校 大道暉玄

見上げれば桜満開サンライズ
倭文小学校 大道優希

水仙やいろとりどりの春の風
倭文小学校 中田怜奈

だんじりはでかくていいなりゆうのめと
倭文小学校 掛水蒼空

春の風ラベンダーの香りのせ
倭文小学校 四位幸菜

城星学園小学校(大阪市)
所沢高等学校(所沢市)
淡路高等学校(淡路市)
その他(南あわじ市)

淡路島 俳句の言葉〜「俳句で詠む淡路島百景」より

日の出、落暉、島の風、島の子、

大灘、海坂、海峽、門、黒潮、潮目、渦、沖ひかり、沖はるか、潮騒、波の音、濤高き、潮風、磯の香、海蛭、浜、岬鼻、灯台、釣舟、渡し舟、出漁、漁師町、蟹の路地、海人、海女、漁具、船着、糶、くぎ煮、

棚田、千枚田、畑、堰、農具小屋、村境、親牛、鳶の笛

神話の島、国生み、神代、廃帝陵、ご神体、神の岩、丹の鳥居、玉ジャリ、宮参り、氏子、平家、水軍、慰霊、天守、城址、城下、野面、石積み

人形浄瑠璃、木偶、式三番、だんじり唄、曳山、地車、例祭、鱈背

淡路瓦、嘉兵衛翁、煉瓦、酒蔵、黒塀、大要塞、地震、断層跡、吊り橋、大橋、橋脚、観覧車、発電、パネル、メガソーラ

淡路島百景の俳句に詠み込まれた言葉から、季語や地名を除き、この島に纏わる主なものを拾ってみた。島、海、山、里、そして、そこに息づく生業（なりわい）や歴史・生活・文化。

この地では、これらの言葉の一つひとつが、具体の手触りをもって景を結ぶ。淡路島の人々が大切にしてきた暮らしが浮かびあがるのである。

この豊かな島の営みに感謝し、美しくユニークで多彩な未来へと引き継がれていくことを願う。

おわりに

兵庫県政百五十年の年に、淡路島百景の全てを俳句で詠んだ『俳句で詠む淡路島百景』を発売することができました。多くの皆様のご協力の賜物と感謝の気持ちでいっぱいです。

これまで「俳句で詠む淡路島百景」、「続 俳句で詠む淡路島百景」と三度にわたる刊行にあたり、第一版では、稲畑汀子先生、大久保白村先生、鈴木貞雄先生、成川雅夫先生、安原葉先生に俳句を選定、更に特別投句をいただきました。

続編では、大星たかし先生、高田菲路先生、中谷のぶ先生、正井良徳先生、三根香南先生、稲山忠利先生に選句をお願いし、編集作業においては、淡路文化協会作成委員会の皆様にお世話になりました。また、表紙の題字は、書家の大河内暁水先生の揮毫

淡路県民局長

吉村文章

によるものです。

この完成版では、淡路文化協会の正井良徳会長、三根香南作成委員長、木下圭子編集長を中心に冊子作成にあたっていただきました。第一版の企画から集大成となる完成版発刊に至るまでのご尽力に厚くお礼申し上げます。

この「俳句で詠む淡路島百景」により、淡路島の景観や歴史・文化を島内外に広く情報発信し、国内はもとより海外からも多くの方が訪れ賑わう地域づくりの一助になること、「はじまりの島」の素晴らしい景観が子供たちの宝物として継承されることを心より願っています。

平成三十年七月



編集後記 俳句の島・淡路島

俳句で詠む淡路島百景作成委員会
編集長 木下圭子



今年には明石海峡大橋開通二十周年の節目の年にあたります。思い返せば平成二十六年、当時の淡路県民局長から、「俳句のことで相談したい」と連絡を頂き俳人である三根香南さんとお話を聞くことになりました。「淡路島百景に俳句を添えるという考えはどうでしょう」「それは百景すべてに俳句を添えるということですか」「そうです」「俳句の募集から始めることになりましたね。永田青嵐顕彰全国俳句大会で代表選者として御指導を頂いている、稲畑汀子先生にご相談してみます。」淡路県民局長の構想に、私たちは胸が躍る程の嬉しさを覚えたものです。

初版は百景のうち五十一景のみの刊行となりましたが、好評のうちに冊子がなくなり、増刷が繰り返されました。

平成二十九年、淡路県民局より、「続編を刊行したい」とのお話を淡路文化協会に頂きました。正井良徳会長の下、直ちに作

成委員会を立ち上げ、残る四十九景の俳句募集にとりかかりました。俳句の選は、島内を盛り上げる意味もあり島内選者の皆様にお願いました。二冊を合体させ、さらに新しい記事も加え、淡路島の魅力がぎゅっと詰め込まれた完成版作成には、多くの皆様のお力添えがありました。特に、京阪神エルマガジン社様のお力と、奥井印刷様の熱意のお陰でございます。感謝申し上げます。

最後になりましたが、ホトトギス名誉主宰稲畑汀子先生、若葉主宰鈴木貞雄先生、岬主宰成川雅夫先生、ホトトギス同人会長安原葉先生、公益社団法人日本伝統俳句協会副会長大久保白村先生、田鶴主宰水田むつみ先生、先生方には多大なるご支援ご指導を賜り有難うございました。お陰様で淡路島の宝物が誕生いたしました。誌面をお借りし心より厚く御礼を申し上げます。



選者

ホトギス名誉主宰

稲畑汀子

ホトギス同人

大久保白村

若葉主宰

鈴木貞雄

岬主宰

成川雅夫

ホトギス同人会会長 松の花主宰

安原 葉

かつらぎ特別同人

大星たかし

ホトギス同人

高田菲路

郭公同人

中谷のぶ

南淡七曜俳句会代表

稲山忠利

淡路風土俳句会代表

正井良徳

若葉・岬同人

三根香南

景観解説

高尾善昭

俳句で詠む

淡路島百景作成委員会

淡路島文化協会

会長

正井良徳

委員長

三根香南

編集長

木下圭子

委員

鬼本英太郎

久保英美

増田直美

松本眞美

片山紀子

山岡仁美子

大継淳子

桜井一郎

木村幸一

デザイン

京阪神エルマガジン社

平成30年7月発行

発行／兵庫県淡路県民局洲本土木事務所まちづくり建築課

〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5

TEL.0799-26-3248 FAX.0799-24-4513

編集／淡路文化協会 俳句で詠む淡路島百景作成委員会

印刷・製本／株式会社 奥井印刷

〒656-0531 兵庫県南あわじ市賀集野田459-1

TEL.0799-53-1314 FAX.0799-53-1434

撮影氏名が記載されている写真は「淡路島景観フォトコンテスト」の応募作品から掲載。そのほかの写真は、洲本市、淡路市、南あわじ市、淡路島くにうみ協会、淡路島観光協会はじめ、関係機関・団体から提供いただきました。

**AWAJI
NINGYO
JYORURI** 淡路人形浄瑠璃



絵本太功記「光秀」



30淡路©1-001A5